

「WHO 統合国際診断面接第5版(CIDI 5.0)日本語版の開発と信頼性・妥当性の検証および  
活用のための体制整備に資する研究(1)」

分担研究者 中尾智博（九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野 教授）

研究要旨

WHO 統合国際診断面接(Composite International Diagnostic Interview, CIDI)は、WHO が開発、公表している現時点では唯一の、うつ病、不安障害などの比較的頻度の高い精神疾患の診断をつけるための情報を包括的に収集できる精神保健疫学調査用の構造化面接である。本研究では、DSM-5やICD-11の診断基準に沿って開発された第5版CIDI (CIDI 5.0) の日本語版(面接者使用版、自己回答版)を開発し、その信頼性と妥当性を少数の精神障害群と健常者群との比較により確認し、CIDI 5.0 により収集された情報からDSM-5、ICD-11 に基づく精神障害を同定する診断アルゴリズムを開発する。特にCIDI5.0 をサーバーからインターネット経由で提供することで、地域の精神保健疫学調査や臨床研究を行う研究者・臨床家が簡便にCIDI5.0を利用できるシステムを構築する。

A. 研究目的

WHO 統合国際診断面接(Composite International Diagnostic Interview, CIDI)は、WHO が開発、公表している現時点では唯一の、うつ病、不安障害などの比較的頻度の高い精神疾患の診断をつけるための情報を包括的に収集できる精神保健疫学調査用の構造化面接である。本研究では、DSM-5 や ICD-11 の診断基準に沿って開発された第5版 CIDI (CIDI 5.0) の日本語版(面接者使用版、自己回答版)を開発し、その信頼性と妥当性を少数の精神障害群と健常者群との比較により確認し、CIDI 5.0 により収集された情報から DSM-5、ICD-11 に基づく精神障害を同定する診断アルゴリズムを開発する。特に CIDI5.0 をサーバーからインターネット経由で提供することで、地域の精神保健疫学調査や臨床研究を行う研究者・臨床家が簡便に CIDI5.0 を利用できるシステムを構築する。

B. 研究方法

CIDI 5.0 の日本語版(面接者使用版、自己回答版)を開発し、その信頼性と妥当性を少数の精神障害群【研究1】と地域住民群【研究2】との比較により確認する。

【研究1】英語の CIDI 5.0 を日本語に翻訳し、それをを用いた研修会を実施した後、研修会に参加した面接員によって精神病性障害群、うつ病、

双極性障害、不安症群、強迫性障害、心的外傷およびストレス因関連障害群、食行動障害および摂食障害群、アルコール使用障害の8疾患群について、CIDI 5.0 日本語版を用いた面接を実施する。

研究対象者は各共同研究機関でリクルートされる。面接は、精神科医や公認心理師等によって対面またはオンラインで行われる。各疾患の参加者が20人に達した時点でそれ以上のリクルートを中止する。分担研究者は、強迫性障害20名と不安症群若干名の面接を担当する。

【研究2】地域住民における妥当性検討

世界精神保健日本調査セカンド(審査番号10131)に回答した東京近郊の地域住民から性別、年齢を層別化して合計300人を選択し、研究説明用紙を郵送で送り、郵送またはメールで同意の得られた人を対象とする。(参加率を約3分の1と考え、約100人の研究参加を見込む)

面接は対面またはオンラインで行う。CIDI 5.0 日本語版、精神科医・臨床心理士によって作成された DSM チェックリストおよび ICD を用いた面接を実施し、CIDI 5.0 による診断の精度を確認する。

C. 研究結果

2020年11月2日採択通知され、CIDI5.0の英語版を日本語に翻訳した。翻訳業者に和訳を依頼

した後、複数の研究者によって和訳を確認し必要に応じて修正を行った。主機関（東京大学）で倫理委員会から研究計画の承認を得た（2021年2月8日）。

世界精神保健調査を統括するハーバード大学が主催する面接員トレーニング用のウェビナーを本研究チーム5名が受講した。このウェビナーをもとに、日本における面接員トレーニング用の研修プログラムを開発し、面接システム（PC上で各設問が表示され回答を入力するとインターネット上のサーバーに回答が保存できるもので、対面の面接にも用いられるもの）のベータ版を開発した。

分担研究者は、令和2年度研究において上記の研究状況について班会議で情報を共有した。分担研究者所属機関倫理審査委員会において研究計画の承認を得た（2022年6月15日）。

分担者研究者のチームにおいて7名の精神科医および1名の公認心理師が面接員トレーニング用ウェビナーを受講した。分担者研究者のチームは【研究1】における強迫性障害患者20名の面接を施行した。

#### D. 考察

結果に示したように、強迫性障害をはじめとする患者へのCIDI 5.0日本語版を用いた面接を実施し、目標症例数に達した。

#### E. 結論

分担者は、本研究の進捗情報をチームと共有し、強迫性障害をはじめとする患者へのCIDI 5.0日本語版を用いた面接の実施を行った。

#### F. 健康危険情報

特になし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

特になし。

##### 2. 学会発表

特になし。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

##### 1. 特許取得

特になし。

##### 2. 実用新案登録

特になし。

##### 3. その他

特になし。